

別添 資料

水産総合研究センター(FRA)は、1954年のビキニ環礁での水爆実験以後、長年にわたり海産生物の放射能モニタリングをしてきました。2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所事故により海洋や河川・湖沼に大量の放射性物質が放出されたため、当センターは、事故直後から漁場と水産物の放射能濃度を測定し、各県が実施する水産物の安全性確保のための緊急モニタリングを支援するとともに、生態系を通じた放射性セシウムの挙動を明らかにするための調査研究を開始しました。

そして、事故後の高精度な測定データや飼育実験に基づき、放射性セシウムによる汚染状況やその拡散過程を明らかにするとともに、同じ水産生物でも個体によって汚染レベルが大きく異なるメカニズムを明らかにしました。こうした科学的な成果をもとに、広く一般の方に水産物の放射性物質による汚染とその低減過程を正しく理解していただくため、放射性物質がどのように海、河川・湖沼と魚に広がったのか、放射性セシウムの汚染の実態はどうであったのか、魚は安全になったのかなどに加え放射能の基礎知識についても平易に解説しました。



タイトル：福島第一原発事故による海と魚の放射能汚染

国立研究開発法人 水産総合研究センター編

出版社：成山堂書店 A5判・160頁・並製・定価本体2000円（税別）

目次は以下の通りです

1. はじめに- よみがえる！ 福島の家
2. 原発事故の放射性物質を知ろう
3. 放射能汚染情報のQ & A
4. 放射能調査に取り組む水産総合研究センター
5. 陸から海へ、沖へ、海底へ移動する放射性物質
6. プラクトンから魚へ- 食物連鎖と放射能汚染
7. 淡水魚の汚染状況